２０２１年度

（令和３年度）

事 業 報 告 書

第１　法人の概要

1　学院の母胎
2　学院のモットー、教育理念
3　学院の沿革と概要

第２　事業の概要

1　2021 年度 事業方針
2　2021 年度 法人 事業報告
3　2021 年度 中学校高等学校 事業報告
4　2021 年度 小学校 事業報告
5　2021 年度 こども園幼稚園 事業報告

第３　財務の概要

1　財務の経年比較

学校法人 聖母被昇天学院

第１　法人の概要

法人の名称　学校法人　聖母被昇天学院
法人の住所　大阪府箕面市如意谷 1-13-23
電話番号　072-721-7680
設立　1954 年（昭和 29 年）2 月 6 日学校法人被昇天学園設立認可

1　学院の母胎

学校法人聖母被昇天学院は、1839 年フランスのパリで聖マリ・ウージェニーによって創立されたカトリック聖母被昇天修道会を母胎としている。聖マリ・ウージェニーは、1817 年 8 月 25 日フランスのメッツで生まれ、2017 年 8 月に生誕 200 周年を迎えた。聖マリ・ウージェニーは教育理念「自立した女性を育てる」の具現化のため、世界各国に教育機関として聖母被昇天学院を創立した。日本では、1952 年にフィリピンとヨーロッパから 5 人のシスターたちが来日して修道院を創ると共に、教育事業の開設を準備し、1954 年に学校法人として認可されて以来、聖マリ・ウージェニーの教育理念の原点に立って、こども園・小学校・中学校高等学校の保育並びに教育活動を展開している。

2　学院のモットー、教育理念

(1)　学院のモットー
「誠実・隣人愛・喜び」　『世界の平和に貢献する人の育成』

(2)　教育理念
LIFE――活き活きとエネルギッシュに生きる人
TRUTH――いかなる時でも真実を見極め、誠実に行動する人
FREEDOM――周りにながされず自分で判断し、自分らしく生きる人
GOODNESS――一人ひとりの善さを大切に、ポジティブに思考・発言・行動する人
ONENESS――誠実・隣人愛・喜びの精神大切に、多様性を認め、ともに協働する人

3　学院の沿革と概要

(1)　法人設立認可年月日
1954 年（昭和 29 年）2 月 6 日学校法人被昇天学園設立認可
1987 年（昭和 62 年）4 月 1 日学校法人被昇天学園から学校法人聖母被昇天学院に名称変更

(2)　学校園設置認可年月日
1954 年（昭和 29 年）2 月 9 日幼稚園設置認可
1954 年（昭和 29 年）2 月 9 日小学校設置認可
1959 年（昭和 34 年）11 月 6 日中学校設置認可
1962 年（昭和 37 年）9 月 29 日高等学校設置認可
1967 年（昭和 42 年）1 月 23 日短期大学設置認可
2005 年（平成 17 年）7 月 29 日短期大学閉学認可
2015 年（平成 27 年）3 月 31 日幼稚園廃止認可
2015 年（平成 27 年）4 月 1 日認定こども園設置認可

(3)　設置する学校園の概要

幼稚園 1953 年（昭和 28 年）4 月 1 日開園、2015 年（平成 27 年）3 月 31 日閉園
小学校 1954 年（昭和 29 年）4 月 1 日開校
中学校 1960 年（昭和 35 年）4 月 1 日開校
高等学校 1963 年（昭和 38 年）4 月 1 日開校（全日制普通科）
認定こども園聖母被昇天学院幼稚園 2015 年（平成 27 年）4 月 1 日開園

2015 年（平成 27 年）4 月 1 日認定こども園聖母被昇天学院幼稚園開園
2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際小学校に名称変更
2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際中学校に名称変更
2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際高等学校に名称変更
2018 年（平成 30 年）4 月 1 日こども園アサンプション国際幼稚園に名称変更

(4)　学校園の生徒等数の状況

2021 年 5 月 1 日現在　（単位：人）

区　分	収容定員数（A）	現員数（B）	収容率（B/A）
こども園アサンプション国際幼稚園	324	244	75.3%
アサンプション国際小学校	360	372	103.3%
アサンプション国際中学校	240	137	57.1%
アサンプション国際高等学校	360	313	86.9%
合計	1284	1066	

認定こども園聖母被昇天学院幼稚園は 2018 年 4 月 1 日に、こども園アサンプション国際幼稚園に園名を変更

(5)　役員、評議員の概要

2021 年 5 月 1 日現在　（単位：人）

職　務	定員数	現員数
理事	5	5
監事	2	2
評議員	11	11

(6)　教職員の概要

2021 年 5 月 1 日現在　（単位：人）

区　分		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	合計
教員	本 務	19	34	21	21	95
	兼 務	19	11	8	9	47
職員	本 務	3	3	4	3	13
	兼 務	1	5	1	2	9

第２　事業の概要

１　2021 年度 事業方針

アサンプション国際 ２０２１年度 事業計画と概要

（事業目標）

（１）経営再建として５カ年をめどに単年度収支の均衡化を図るため、下記の募集人数を確保する。

小学校　60 名（募集定員６０名）⇒ 事業実績 2021 年４月新入生　84 名
中学校　50 名（ 同　８０名）⇒ 事業実績 2021 年４月新入生　36 名
高等学校　130 名（ 同 １２０名）⇒ 事業実績 2021 年４月新入生　107 名

（２）小中高は、「２１世紀型教育」３本の柱の中 本学院の特性を生かし特に英語教育に力を入れ、広報の柱として募集を図る。

（３）学院スクールモットー 「誠実　隣人愛　喜び」 を生きる生活基盤となるよう、教育課程の様々なところにカトリック理念を入れ込むアサンプション教育の徹底を図る。

（事業展開）

（１）学院が統一した教育精神を伝え、幼稚園と小学校、小学校と中学校の連携を強化し、入試広報につなげる。

（２）学院で学ぶ生徒が、自分の可能性を見出し、生きる力を身に付ける。また、カトリック校としての伝統である「心豊かな教育」と共に、予測不可能な時代に立ち向かい、生きる力を身に付けるためにＰＢＬ「課題解決型学習」を日常の学びに充実・発展させる。

（３）学院の「教育の３本柱」は、PBL（Project Based Learning 課題解決型教育）・英語教育・ICT 教育である。所属ごとに学齢に合った教育活動の土台とする。

（４）ICT 教育においては、小学校２年生から iPad を一人一台所持する。

（５）学院の教育理念である「ONENESS」を、学院全体に浸透させ学院として学びの共同体となる。

（ 事業実績 ） 2021 年度在校生の内訳

	男子		女子		計
小学校	121	32.5%	251	67.5%	372
中学校	63	46.0%	74	54.0%	137
高等学校	136	43.5%	177	56.5%	313
計	320	38.9%	502	61.1%	822

２　2021 年度　法人 事業報告

１．入学生激減から脱却し、増加に転換

本学院は、創立者のカトリックの精神に添い、教養ある人材の育成を掲げ、1954 年（昭和 29 年）2 月に学校法人被昇天学園として設立認可を受け、幼稚園及び小学校を開校し、以後順次、中学校、高等学校、短期大学を開校し、以後、1987 年（昭和 62 年）4 月に法人名を聖母被昇天学院に変更し、2005 年（平成 17 年）7 月に短期大学を閉学したが、本学院の母胎である聖母被昇天修道会の教育理念に従って学校教育及び保育を展開してきた。しかし、近年は少子化の影響を多分に受け、2015 年 4 月には小学校入学生が 15 名と激減した。この現状を鑑み、2017 年より 21 世紀型教育並びに本学院の特性である英語教育を強化し現在に至っている。

近年の５月１日在籍生徒数と収容定員充足率

年度	収容定員	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
幼稚園	324	318	310	314	308	309	296	285	275	259	244
小学校	360	267	247	222	189	179	208	244	267	303	372
中学校	240	181	174	149	133	133	117	127	141	160	137
高校	360	197	186	174	172	164	184	233	311	317	313
総合計	1164	963	917	859	802	785	805	889	994	1039	1066
小中高計	960 (840)	645	607	545	494	476	509	604	719	780	822
小中高収容定員充足率		76.8%	72.3%	64.9%	58.8%	56.7%	60.6%	71.9%	74.9%	81.3%	85.6%

※2017 年から小中高が男女共学
※高校の収容定員は 2018 年まで 240 名、2019 年から 360 名

２．施設設備工事等
2021 年度の児童数増加と設備の老朽化に伴う改修工事は次のとおりである。

・聖堂多目的室エアコン更新工事
・聖堂屋上防水工事
・中高棟 GHP ２台更新工事
・小学校と聖堂（一部）放送設備機器更新工事
・小学校エアコン更新工事
・小学校屋上（一部）防水工事
・小学校図書室改修工事
・小学校普通教室改修工事
・幼稚園エアコン更新工事
・全校舎 LED 工事

３　2021 年度　アサンプション国際中学校高等学校　事業報告

【ミッション】

学院のモットー「誠実　隣人愛　喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す

～全学年が新体制になるため、「アサンプション 21 世紀型教育」の充実と定着

【最重要課題】

１．入学者の確保　中学校５０名以上、高等学校１３０名以上の入学者確保。

２．アサンプション 21 世紀型教育をさらに定着し充実するため、学校全体・教員個人の教育力の向上を目指す。

３．学校改革に見合った施設設備の充実。

【最重要課題に対する施策と評価】

①中学入試結果・・・中学入学予定者は 48 名（達成率 96%）、昨年比+10 名

	志願						受験	入学		
	帰国生	A午前	A午後	B日程	C日程	合計	合計	併以外	併設小	合計
2022年度入試	0	36	3	14	1	**54**	**52**	40	8	**48**
2021年度入試	1	26	10	9		**46**	**44**	30	6	**36**
2020年度入試	0	36	16	19	1	**72**	**72**	43	9	**52**

１）併設小進学者 8/36（22%）⇔2020 年 6/13（46%）2019 年 10/24（42%）2018 年 18/32（56%）

２）他校状況（初日午前を第 1 志望とカウントした場合の実質競争率）

本校 30/70　⇔箕自 44/70、追手門 44/80、関倉 78/140、香ヌ 39/70、信愛 28/60、履正社 55/105

千国際 123/40、関大 125/65、関大一 465/240、近大 351/、梅花 103/60

・進学校・大学系列でない私立中はどこも苦しいなか、持ちこたえたか。

３）Ｂ日程終了以降の問い合わせの減少

・試験日程を拡大した私立中学校は多く、Ｃ日程のニーズがない→検討必要。

②高校入試結果・・・高校入学予定者は 124 名（達成率 95%）、昨年度比＋17 名

	志願							入学			
	帰	1 次		1.5 次		合計					
	専願	専願	併願	専願	併願	専願	併願	併以外	併設中	合計	
2022年度入試	4	67	64	4	4	75	68	87	37	**124**	併戻り 13/68(19%)
2021年度入試	2	46	39		3	48	42	65	42	**107**	併戻り 17/42(40%)
2020年度入試	8	43	59			51	59	63	28	**91**	併戻り 12/59(20%)

１）併設中学校からの進学者は 37/52（71%）⇔2020 年 42/54（78%）2019 年 28/30（93%）

２）高校入試出願者は　専願 75 名　併願 68 名　⇔専願者は＋27　、併願者は＋26

・公立中学・塾への信頼回復　→地道な訪問、部活動の顧問の交流等で信頼回復

・生徒を前面に出した説明会　→取りこぼしが少なく最後までひきつけられた。

３）生徒の動向

・説明会参加者も受験者も女子が 2/3 と多い。→英語のイメージが強い。

③対策の評価

・学校 Web 管理業者とパンフレット制作業者を同一とし、最新のパンフレット掲載内容を学校 Web に反映させた。

・各コースの内容を紹介する動画を制作し、学校説明会や Web で情報発信を行った。

・管理職自らブログの更新を行い、こまめな情報発信を心掛けた。

→　学校の知るきっかけとして Web・SNS の役割が増えてきているので発信を強化する。

・説明会の内容を工夫、生徒による司会・説明を増やし、また体験型の内容も増やした。
イブニング説明会などミニ説明会の企画も行い、最後まで志願者を増やすことができた。

・公立中学訪問も重点地域は 5 回以上、それ以外の地域も訪問範囲を広げ、訪問校は 148 校（のべ 407 校）を訪問し信頼関係を築きつつある。

④継続課題と改善

1）入試広報課の位置づけ・連携

・2020 年度後半より中高入試広報部が直轄する形に変更、それまでにストップしていた塾への情報発信を充実させることができた。法人本部ではなく中高に所属を移し、より連携をとる必要がある。

⑤学校評価アンケートでは

・生徒・保護者アンケートでは、クラス・学年運営への満足度は高いままであった。
担任を中心とした学年団の丁寧な対応、クラッシー・通信による情報発信の成果と考えられる。

・進路に関する情報発信については弱いという結果が出た。保護者向けに進路の勉強会をするなど次年度充実を目指していきたい。

２．教育力の向上

（1）英語イマージョン教育の充実

①イマージョン委員会を組織し、週に 1 回の定期的な会議で担当者間の情報交換を行った。
またネイティブ教員の採用についても主体的に関わってもらい、優秀な人材を確保することができた。

②課題としては、待遇面など定着してもらえるような施策や、今後も主体性をもって学校運営に関わってもらう体制づくりが必要である。

（2）PBL 教育の推進

①授業プロジェクト委員会を設置し、希望者対象の勉強会を年間 4 回実施し、8 人の先生に事例報告をしていただいた。都度内容を共有する通信を発行した。

②11 月に授業見学週間を復活させ、お互いの授業を見学し、いいところ課題について共有する教員研修を実施した。

③全体研修としては 8 月に「授業の工夫」の共有をテーマに、3 月に「つける力を意識する」をテーマに全教職員を対象とした教員研修会を実施した。

（3）ICT 教育の推進

①全生徒に iPad を購入させ、各授業で積極的に活用している。

②コロナ関連の補助金を受けて、教員用のタブレット端末を一部更新した。

③メディアルームの PC も性能的に限界が来ている。定期的に更新する必要がある。

（4）グローバル教育の充実

①コロナ禍で国際交流プログラムが行えない中、オンラインによる国際交流授業など、方法を工夫して国際交流を行った。

②2022 年 1 月からターム留学を再開するなど、可能なところから留学を再開させることができた。

③海外大学・留学ガイダンスなど生徒や保護者向けに情報を発信するガイダンスを充実させた。

④水曜日放課後に、外部業者による英検講習を開始し英検取得率を向上させる取り組みを行った。

（5）進路実績の向上

①現役生徒では、国公立4名、上智・南山4名、関関同立19名、四女子大9名　産近甲龍8名薬科大学2名など全体的な進学実績を向上させた。浪人生でも医学部2名の合格をだした。

②多様化複雑化する大学入試に対応し、総合型選抜、指定校推薦、公募推薦、共通テストなど受験種別ごとのガイダンスをこまめに実施し生徒への情報提供を充実させた。

②大学出張授業、学部学科ガイダンスなど大学での学びについて、大学関係者に直接話を聞く機会を設け、生徒に大学での学びのイメージを持たせるようにした。

③志望理由書の作成・面接練習をについて、多くの教員が専門性を生かして関わり指導し、実績を上げることができた。

④連携協定校である関西学院大学への進学を意識させ、今年度も10名以上の生徒が進学した。

3．学校改革に見合った組織と施設設備の充実

（1）大規模設備・施設更新についての長期計画の立案の必要性。

・校舎南側への住宅検察、西側への飛び出し対策としてネットの継ぎ足し・新設を中高から要請し、年度末に工事が行われた。

・自転車置き場の屋根新設の要望は高いが、法規制により新たな屋根構築が難しい状況。
これに加え自転車通学生徒増加により新たな置き場の設置が必要である。

・設備更新ではメディアルーム機器（約1000万円）、教員用・生徒共用タブレット端末の更新（リース）、校舎冷房設備（約25年が経過）、教員室の机（多くが30年以上）の更新が急がれる。これらについては重ならないように長期計画の立案が必要である。

・中高棟2階の教室について小学校設備となっているが、長期的には小学校独自で教室の確保が必要である。これについても学院で計画が必要である。

4　2021年度　アサンプション国際小学校　事業報告

【ミッション】

学院のモットー「誠実　隣人愛　喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す。
～全学年が新体制になるため、「アサンプション21世紀型教育」の充実と定着

【重点課題】

（1）授業力向上…教職員の意識改革、組織力強化と授業力の向上の育成
（2）英語力強化…イマージョン教育の定着と組織化
（3）学院的課題…募集80名を目標とした広報戦略の強化
（4）幼・中高教職員間…内部進学制度の充実と教員の相互補完
（5）宗教教育再生・強化…カトリック校に相応しい全校的体制刷新

【具体的な取り組みと評価】

（1）授業力の向上

①研究研修体制

研究研修部が、研究テーマを設定し定例の教員研修を開催した。コロナの影響もあり、時期によっては教員の参加を制限することもあったが、オンラインを活用した研修体制も導入することができ、新しい研修の形を検討・実施できた。今後は、オンライン・オフラインの良さを取り入れ、全教員が参加できる研修体制を整えていく。

②PBL

全体的な意識を高めることはできた。初任者に対しても、初任者研修を通してPBLの理解を深めることが出来た。活動内容については概ね定まってきたので、今後は本校のPBLの目指すものを言語化して共通意識を持つことが大切になってくる。

③ICT活用

iPadの導入により、授業内でのICT活用場面は大幅に増えた。児童の運用能力も向上しているので、iPadを「使う」ことから「使って何を考えるか」の授業に重点を置く段階に入ってきた。教員間の情報共有や研修の機会がより一層必要になってきている。

（2）英語力（イマージョン）強化

①モジュールタイムの導入

…定期的に朝の時間を確保することで、取り組みを定着させることはできた。今後、内容の見直しも随時行い、新教材（電子書籍）の有効利用など高いレベルでの英語力定着を図る。

②イマージョン授業レベルアップと全学年への拡大。

…定期的に会議の場を持つことができ、PBL の授業を主体とするという意識統一ができた。また、指導に際しての注意点なども確認できた

…研究授業の実施は年間で３回実施できた。しかし、アカデミックコースの教員の参加率が低く、他コースにおける理解度を深めることには至らなかった。より多くの教員が参加できるような呼びかけ、仕組みが必要となっている。

③中高のイマージョン部との連携

…具体的な指導・カリキュラムなど、12 年一貫プログラムを構築できた。今後、教員間への周知徹底が望まれる。

（３）学院的課題＝募集大増強（80 名）　※入学者 68 名

①幼稚園⇒園長推薦制のさらなる確立と説明会実施

…2022 年度入試内部園長推薦は 22 名となった。

②小学校⇒校長推薦制度改革と中学授業への体験の実施

…4～6 年生児童・保護者に対して、説明会・出張授業を実施した。

（４）幼・中高教職員との連携強化

①幼稚園⇒園長推薦制のさらなる確立と説明会実施

…6 月・11 月に併設幼稚園への説明会を行った。参加者は安定して確保できている。

…推薦制度とコース決定方法の周知も浸透してきている。

②小学校⇒校長推薦制度改革と中学授業への体験の実施

…4～5 年生児童・保護者に対して、進学セミナーを実施した。

（５）宗教教育再生・強化

①「宗教の時間」への教員の参画機会増強

…礼拝担当を通じて、Sr.の助言のもと、聖書や創立者の言葉について考える機会があった。

…学級担任は、週１時間の「宗教」授業に参加した。

②教員に対する宗教教育実施

…8 月に教員研修を実施。礼拝が 2 年間ライブ配信になり指導にばらつきが見られる。

5　2021 年度　こども園アサンプション国際幼稚園　事業報告

【理念】

・キリスト教の精神に基づき「誠実・隣人愛・喜び」をモットーとする。

・愛されて愛する心を知り、一人ひとりが、かけがいのない大切な存在であることを知る。

【在籍日数及び入園者報告】

・２歳児クラス　１２名

・３歳児クラス　８０名

・４歳児クラス　７４名

・５歳児クラス　８５名

計２５１名　（２０２１年度３月末実績）

【重点課題】

１．教育充実の取り組み

２．地域との連携

３．園児募集に関わる事業

【具体的な取り組みと評価】

１．教育充実の取り組み

（1）聖堂に行きシスターから聖書のお話を聞く。

キリスト教保育を実践する中で、各学年で月１回、聖堂でシスターから神さまのお話を聞く機会を持った。神さまに守られながら、喜びと感謝の気持ちを持って過ごした。

（2）本園教員、ネイティブによる英語教育カリキュラムの構築。

学年に応じた指導と教育時間の計画を立てて実施した。ほとんどの子どもが楽しんで参加することができた。（年中・年長組…毎週２回、年少組…２学期より週１回実施）

（3）クラスを縦割りクラスから横割りクラスに変更。

横割り保育では、同じ年齢の友だちの中で人間関係の構築に必要な関わりを経験した。また縦割り保育の良い所も残すため、自由遊びの中での年少さんへのお世話や、火曜日の午後に時間を設定し異年齢保育を実施した。それにより相手に対する思いやりや労わる気持ち、成長への憧れや期待をもって過ごすことができた。しかし年度後半は行事の練習に追われ落ち着いて日常の保育を見直を見直す時間がなく、時間設定での異年齢保育を行うことが難しかった。

（3）コヤマスポーツスクールによる体操指導の実施。

幼児体操専門の指導員を招き、子どもたちの運動能力を伸ばすための体操保育を実施した。

（4）キリスト教保育の職員研修をｗｅｂにて実施。

キリスト教保育に携わるものとして大切にしたいこと「愛されている自分を感じる」「神さまに感謝する」「目には見えないことに価値をおく」「一人ひとりを大切にする」などを再認識する研修となった。

２．地域との連携

（1）地域子育て支援「みんなで あそぼう」を年間１０回実施。（園庭開放、行事参加等）「緊急事態宣言」や「まん延防止措置」発令中は中止という要請が箕面市からあり３回のみの実施となった。

（2）子育て支援事業として、子育て相談員（主幹教諭）を配置した。

３．園児募集に関わる事業

（1）プレスクールの実施（２歳児 17 名定員３クラス年間 18 回）５１名中２５人が入園に繋がった。

（2）ブログを毎日更新し、子どもたちの様子と園内の新しい情報を提供。

（3）入園説明会を９月に実施。

コロナ禍により３回に分けて実施。また参加方法を対面での参加と Web 配信での参加、どちらかを選択できるようにして行った。その結果、対面での参加者６７名、Web 配信での参加９１名となった。

第3　財務の概要

1 財務の経年比較

入学者数（単位：人）　　5/1現在

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
高等学校	79	118	126	92	106
中学校	30	58	56	52	36
小学校	67	67	66	65	84
こども園	107	83	86	85	84
合計	283	326	334	294	310

在籍者数（単位：人）　　5/1現在

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
高等学校	184	233	311	317	313
中学校	117	127	141	160	137
小学校	208	244	267	303	372
こども園	302	285	275	259	244
合計	811	889	994	1039	1066

教職員数（単位：人）　　5/1現在

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
高等学校	教員	18	22	21	22	21
	職員	1	1	1	1	2
中学校	教員	19	22	21	23	21
	職員	1	2	1	1	0
小学校	教員	21	23	25	29	33
	職員	2	2	1	1	1
こども園	教員	19	17	16	18	19
	職員	2	2	2	2	2
法人	職員	7	7	8	7	8
合計	教員	77	84	83	92	94
	職員	13	14	13	12	13

資金収支計算書（単位：百万円）

項目		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	393	789	521	576	645
	手数料収入	12	7	6	5	6
	寄付金収入	205	72	7	10	8
	補助金収入	298	338	426	453	459
	資産運用収入	0	0	0	0	0
	資産売却収入	0	0	0	0	0
	事業収入	47	18	16	14	15
	付随事業・収益事業収入	0	0	0	0	0
	受取利息・配当金収入	0	0	0	0	0
	雑収入	26	14	11	11	31
	借入金等収入	50	470	83	620	240
	前受金収入	55	69	50	54	65
	その他の収入	482	560	675	523	680
	資金収入調整勘定	△ 72	△ 84	△ 122	△ 85	△ 99
	収入の部小計（A）	1,497	1,951	1,671	2,181	2,050
	前年度繰越支払資金	44	78	202	118	87
	収入の部合計	1,541	2,030	1,873	2,298	2,137
支出の部	人件費支出	680	638	729	735	818
	教育研究経費支出	134	141	169	185	223
	管理経費支出	97	130	134	92	96
	借入金等利息支出	5	19	9	6	1
	借入金等返済支出	19	198	53	676	350
	施設関係支出	1	106	52	2	10
	設備関係支出	22	13	14	2	6
	資産運用支出	81	137	138	124	122
	その他の支出	465	455	491	417	539
	資金支出調整勘定	△ 41	△ 47	△ 34	△ 21	△ 54
	支出の部小計（B）	1,463	1,828	1,755	2,217	2,111
	次年度繰越支払資金	78	202	118	82	27
	支出の部合計	1,541	2,030	1,873	2,298	2,138
（A-B）年度収支差額		35	123	△ 84	△ 36	△ 61

事業活動収支計算書（単位：百万円）

項目			2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	393	488	521	576	644
		手数料	12	14	6	5	6
		寄付金	206	0	7	10	8
		補助金	298	301	426	453	459
		経常費等補助金	0	0	0	0	0
		資産運用収入	0	0	0	0	0
		事業収入	47	50	16	14	15
		付随事業収入	0	0	0	0	0
		雑収入	4	2	8	2	31
		教育活動収入計	960	855	983	1,060	1,163
	事業活動支出の部	人件費	655	629	729	710	815
		教育研究経費	224	323	169	282	316
		内減価償却額	90	91	93	97	93
		管理経費	98	140	134	92	97
		内減価償却額	2	1	2	2	1
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
		教育活動支出計	1,069	1,185	1,126	1,084	1,228
	教育活動収支差額		△109	△329	△143	△24	△64
教育活動外収支	事業活動の部収入	受取利息・配当金	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	0	0	0	0	0
	事業活動の部支出	借入金等利息	5	5	9	6	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	5	5	9	6	0
	教育活動外収支差額		△5	△5	△9	△6	0
経常収入			960	855	983	1,060	1,163
経常支出			1,074	1,190	1,135	1,089	1,228
経常収支差額			△114	△335	△152	△30	△65
特別収支	事業活動の部収入	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	7	0	0	0	0
		特別収入計	7	0	0	0	0
	事業活動の部支出	資産処分差額	2	0	7	0	1
		その他の特別支出	0	0	0	0	1
		特別支出計	2	0	7	0	2
	特別収支差額		5	0	△7	0	△2
基本金組入前当年度収支差額			△110	△335	△159	△30	△67

（参考）

項目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
基本金組入前当年度収支差額（減価償却控除前）	△18	△243	△65	69	27
事業活動収入計	966	855	983	1,060	1,163
事業活動支出計	1,076	1,190	1,143	1,090	1,230
人件費比率（寄付金控除後）	86.1%	73.6%	74.7%	67.7%	70.5%
中高収支	△142	△60	△54	△50	△76
小学校収支	△40	△6	20	35	52
こども園収支	△7	8	15	△3	△34